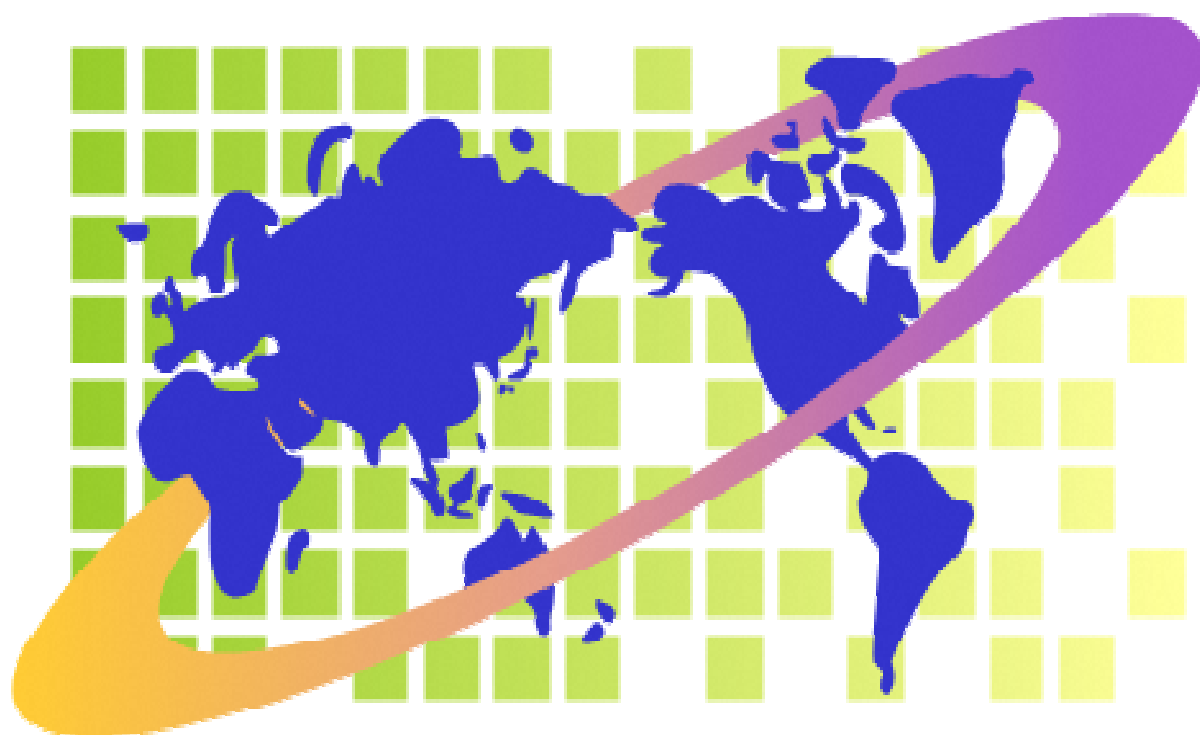


大分県グローバル人材育成推進プラン 第2ステージ



平成30年5月
大分県教育委員会

〈目次〉

I	はじめに	1
II	第1ステージの成果・課題	3
	1 挑戦意欲と責任感・使命感の育成	
	2 多様性を受け入れ協働する力の育成	
	3 大分や日本への深い理解の促進	
	4 知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力の育成	
	5 英語力（語学力）の育成	
III	第1ステージの指標の分析・検証	26
IV	第2ステージの取組	28
	1 国際的視野の涵養	
	2 継続的な国際交流の充実	
	3 伝統や文化に関する教育の充実	
	4 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の推進	
	5 英語「発信力」の強化	
V	第2ステージの指標	34
VI	おわりに	35

参考

第2ステージ概念図

I はじめに

県教育委員会では、平成26年5月に「大分県グローバル人材育成推進会議」を設置し、本県における「グローバル人材」の資質・能力等について審議を行ってきた。この会議での意見やアンケート結果等を踏まえ、同年10月、「大分県グローバル人材育成推進プラン」を策定し、これからのグローバル社会を生きる本県の子どもたちが、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働し未来を切り拓く上で、以下の5つの力の「総合力」が必要であり、その素地を教育の中で培うことが必要であるとした。

5つの力の「総合力」

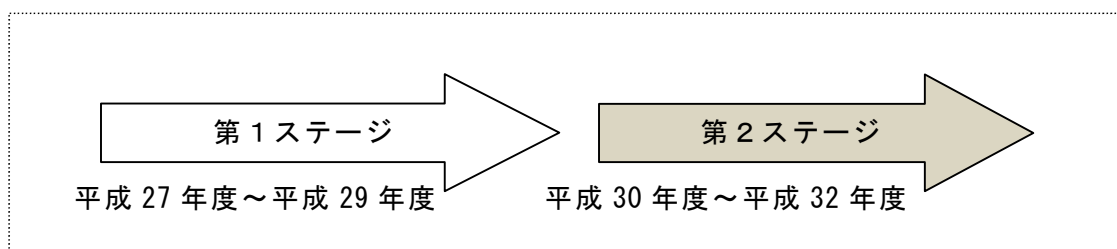
世界に挑戦し、多様な価値観を持った者と協働する基盤となる

- 挑戦意欲と責任感・使命感
- 多様性を受け入れ協働する力
- 大分県や日本への深い理解
- 知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力
- 英語力（語学力）

同プランでは、これらの5つの力を総合的に育成するための、平成27年度から3カ年で取り組むべき具体的な施策を定めた。県教育委員会では、平成27年度、高校教育課内にグローバル人材育成推進班を新たに設置し、従来の国際理解教育等の取組に加え、このプランに基づき、グローバルリーダーの育成や留学支援、英語力向上の取組等を総括的に進めてきた。留学フェアの実施や、グローバルリーダー育成塾の開催など、新たな取組も数多くスタートさせた。

また、一方で、東京オリンピック開催に向けた準備の進展やラグビーワールドカップの開催決定、新学習指導要領の公示など、この3年間に大分や日本を取り巻く状況も確実に変化を示している。そこで、今回、これまでの3年間を「第1ステージ」として位置付け、この「第1ステージ」間の取組の状況や生徒の意識の変化等を分析し、これまでの成果や課題を把握した上で、今後さらなる取組の発展を目指し、平成30年度からの3年間を「第2ステージ」として、その取組の方向性等を定める。

大分県グローバル人材育成推進プラン



[参考]

「大分県グローバル人材育成推プラン」策定の経緯

○「グローバル人材育成推進会議」審議の経過（平成26年）

第1回	5月14日	大分県における「グローバル人材」の資質・能力について
第2回	7月1日	「挑戦意欲と責任感・使命感」について
第3回	8月7日	「多様性を受け入れ協働する力」及び「大分県や日本への深い理解」について
第4回	8月29日	「知識・教養に基づき論理的に考え伝える力」及び「英語力（語学力）」について
第5回	9月25日	「大分県グローバル人材育成推プラン」について

○「大分県グローバル人材育成推進会議」委員

企業関係者	株式会社大分銀行	常務取締役	渡部 智弘
	三和酒類株式会社	取締役副社長	熊谷 敬造
	大分日産自動車株式会社	取締役社長	橋本 仁
	英語教室	代表	池田 裕佳子
	独立行政法人 日本貿易振興機構	大分貿易情報 センター所長	松村 亮
大学関係者	大分大学教育福祉科学部	教授	山崎 清男
	立命館アジア太平洋大学	国際経営学部長	横山 研治
保護者代表	大分県PTA連合会	副会長	廣瀬 多賀子
	大分県高等学校PTA連合会	副会長	渡辺 美和子
学校教育関係者	杵築市立杵築中学校	校長	森山 聡
	宇佐市立宇佐中学校	校長	吉村 高三
	大分県立由布高等学校	校長	工藤 孝一
市町村 教育委員会	別府教育委員会	教育長	寺岡 悌二

*団体名及び職名は平成26年9月のもの。

Ⅱ 第1ステージの成果・課題

1 挑戦意欲と責任感・使命感の育成

大分県グローバル人材育成推進プラン（第1ステージ）で設定した取組

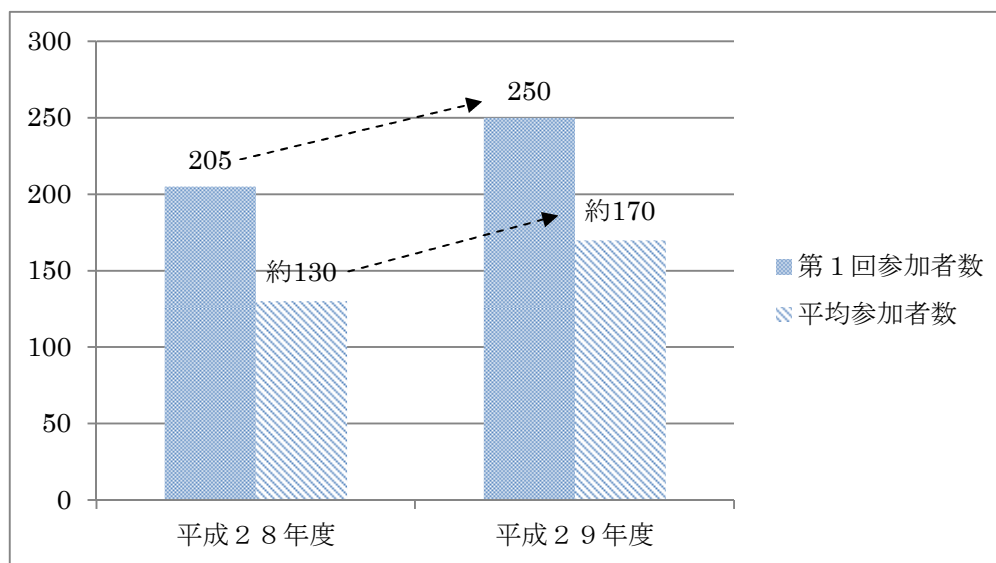
(1) グローバル人材に触れる機会の充実
(2) 留学支援事業の一層の活用等を含む、留学への積極的な支援の充実
(3) 留学の気運の醸成や情報提供の充実
(4) 海外大学進学への相談体制の整備

(1) グローバル人材に触れる機会の充実

○グローバルリーダー育成塾

平成28年度から、世界へ挑戦する気概やリーダーとしての素養の育成に向けて、年間4～5回、高校1、2年生を対象に、世界で活躍する講師による講演や生徒同士の意見交換を実施している。2年目の平成29年度は、平成28年度と比べて、第1回参加者数（約2割増）、1回当たりの平均参加者数（約3割増）ともに増加している。

[参加者の推移]



[参加者の感想（一部抜粋）]

- *日本の奥深くを知らなければ、たとえ世界で戦おうと思っても戦えないこと、そして最後は、信頼力と人間力が大切であることを学んだ。
- *大分には広い視野を持って活躍している同世代がたくさんいることを知り、「このままではいけない」「成長しなければ」という思いが強くなった。
- *自分自身の英語力不足を実感した。これからの学校生活では、しっかり英語に取り組み、自分の意見を英語で表現できるようになりたい。

[参考]

「平成29年度グローバルリーダー育成塾」プログラム内容

第1回 一流講師の考え方に触れ、グローバルリーダーとしての意識の涵養を図る：

講演「グローバル時代を生き抜く 21世紀に必要とされる人材とは」

〈講師〉 政治解説者・ジャーナリスト 篠原文也 氏

協議「大分の未来を考える～大分県のリーダーとして～」

発表「魅力アップ、大分県」 〈講評〉 大分県知事 広瀬勝貞 氏

発表「グローバルリーダー育成塾で学んで欲しいこと」

〈発表者〉 前年度グローバルリーダー育成塾参加者

開
講
式

第2回 「福祉」「医療」「環境・エネルギー」「観光・海外戦略」「教育」のテーマ別に分かれ、日本・世界の課題を探る：

講演「日本・世界の課題解決に向けて」（5つのテーマ別に実施）

〈講師〉 東京大学先端科学技術研究センター特任准教授、東京大学大学院

新領域創成科学研究科客員共同研究員、JICA 国際協力推進員、

国立国際医療研究センター課長、株式会社西広大分支社長

協議・発表「日本・世界の課題解決に向けて」（5つのテーマ別に実施）

〈講評〉 上記の講師

塾
生
各
自
が
テ
ー
マ
別
に
課
題
研
究

第3回 政治、経済、科学技術などの最前線に触れ、リーダーに求められる力を養う（福岡宿泊研修）：

研修「大学・企業・国際機関で活躍するグローバルリーダー」

〈講師〉 在福岡アメリカ領事館、JTB、ベネッセコーポレーション、国

連ハビタット、九州先端科学技術研究所、九州大学、ASEAN

セミナー等グローバルに活躍する大学・国際機関・企業の関係者

協議①「社会の課題を解決するビジネスプランを作る」

協議②「自分にとって必要な学びとは」 〈助言者〉 大分県出身九州大学生

第4回 5つのテーマについて、世界の課題解決に向けた提言を行い、グローバルリーダーとして世界へ挑戦する気概を育成する：

発表「発信 私たち高校生リーダーの活躍！」

〈発表者〉 SGH、SSH、専門高校各学科等代表生徒

協議・発表「グローバルリーダー育成塾生としての私の提言

～世界の課題解決に向けて～」（使用言語：英語）

県内大学留学生・ALT約60名が協議に加わり、世界の課題を解決するための提言を、5つのテーマごとに英語で採択する。

高
校
生
サ
ミ
ツ
ト

○Web 会議

平成29年度から、生徒の英語活用力や異文化に対する挑戦意欲の向上、多様な考えをもつ世界の若者と話し合うことによる思考力、判断力、表現力の向上等を目指し、国内外の学校等と ICT を活用した遠隔交流の実施に向け調整を行っている。平成29年度は、県立高校6校が5カ国（ベトナム・インドネシア・バングラディシュ・中国・アメリカ）の人々と、Web 会議を通じて英語による発表・意見交換を実施した。

[Web 会議実施校一覧（平成29年度）]

学校名	交流先	実施内容
大分上野丘高校	ベトナム レ・ホン・フォン高校	「環境問題」についての 発表・意見交換
中津南高校	立命館アジア太平洋大学 (ベトナム、バングラディシュ)	「歴史・文化」についての 発表・意見交換
大分西高校	国際交流員 (中国、アメリカ)	グローバルリーダー育成塾で 扱った諸テーマについての発 表・意見交換
大分雄城台高校	立命館アジア太平洋大学 (インドネシア、 バングラディシュ)	グローバルリーダー育成塾で 扱った諸テーマについての発 表・意見交換
大分商業高校	楽天東京本社	地元企業と連携したネット広 告の共同開発
津久見高校	立命館アジア太平洋大学 (ベトナム、バングラディシュ)	「防災ボランティア」 についての発表・意見交換

[参加者の感想（一部抜粋）]

- *自分と違う視点の意見を聞くことができ、視野が広がった。
- *外国の方の英語を理解することや自分の意見を英語で伝えることは想像以上に難しく、更なる勉強の必要性を感じた。
- *外国の方の日本文化に対する見方がとても興味深かった。自分達の文化についても英語で話せるようになりたい。

○国際交流サポーター（県内大学留学生）

平成29年度から、県内の大学（立命館アジア太平洋大学・大分大学・別府大学）に在籍する留学生を国際交流サポーターとして登録し、グローバルリーダー育成塾等の県教育委員会主催のセミナーや Web 会議システムを使った国際交流等で活用している。平成29年度は、県教育委員会主催のセミナーや国際交流活動等に、のべ47人の国際交流サポーターが参加した。

[平成29年度国際交流サポーター登録状況（国・地域別人数）]

国・地域名	人数	国・地域名	人数	国・地域名	人数
ベトナム	10	インドネシア	5	スリランカ	3
バングラディシュ	5	中国	2	ウズベキスタン	1
シンガポール	2	モンゴル	1	フィンランド	1
マレーシア	2	フィジー	1	香港	2
キプロス	1	オランダ	1	スウェーデン	1
ハンガリー	1	（16カ国・地域 39人）			

（2）留学支援事業の一層の活用等を含む、留学への積極的な支援の充実

県教育委員会では、「長期海外派遣生徒」「短期海外派遣生徒」「派遣を行う学校」の三者を対象に留学支援金の支給を行っている。平成27年度～平成29年度の間、県教育委員会の留学支援金制度を活用して、19校102名の生徒が世界12カ国・地域に留学した。

[留学派遣先（平成27年度～平成29年度）]

アメリカ、イタリア、ニュージーランド、オーストラリア、エクアドル、ドイツ、カナダ、チェコ、イギリス、韓国、台湾、マレーシア

[大分県高校生海外留学支援事業の概要（平成29年度）]

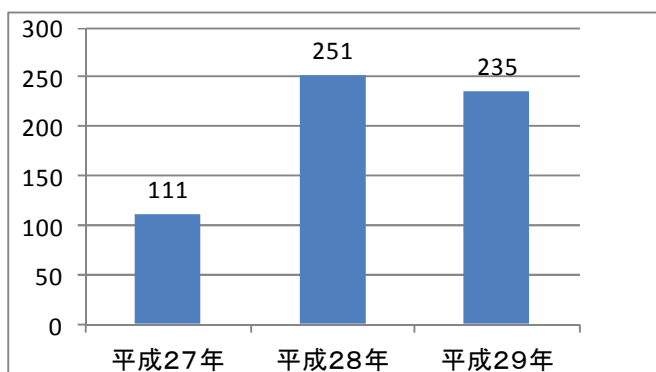
	長期留学	短期留学（学校単位）	短期留学（個人）
内容	期間：原則1年間の高校留学 人数：5名 対象：県内高校、特別支援学校 校高等部、高等専門学校、 専修学校高等課程に在籍する生徒 要件：校長推薦、成績、外部 試験の結果など	期間：原則2週間以上1年未満の 海外短期プログラム 人数：20名（学校単位） 対象：県内高校、特別支援学校 校高等部、高等専門学校、 専修学校高等課程に在籍する生徒 要件：校長推薦、成績など	期間：原則2週間以上1年未満の 海外短期プログラム 人数：20名（個人での参加） 対象：県内高校、特別支援学校 校高等部、高等専門学校、 専修学校高等課程に在籍する生徒 要件：校長推薦、成績など
支援対象	海外渡航費・授業料等 （上限30万円）	海外渡航費・授業料等 （上限6万円）	海外渡航費・授業料等 （上限10万円）

(3) 留学の気運の醸成や情報提供の充実

○留学フェア

平成27年度から、留学への意欲を高めるとともに、留学に関する知識や情報の広がりを目指し、中高校生・保護者・教員等を対象に、グローバルに活躍するための指針を得ることができる講演や発表・協議等を行っている。平成28年度から、実施回数を年1回から2回に変更し、参加人数も初年度の2倍以上に増加した。

[参加者の推移]



[参加者の感想（一部抜粋）]

- * 同世代の仲間の体験談を聞いたり、国内外の様々な人と意見交換したりすることで「留学してみたい」気持ちが「絶対留学する」という決意に変わった。
- * 留学フェアを通して、現地での生活や学習、留学制度などについて具体的に学ぶことができ、留学に対する悩みや不安が解消した。
- * 語学力はもちろん、自分から日本文化を伝えて、海外の人にも興味をもってもらえるようなコミュニケーション力を身に付けたい。

[参考]

「平成29年度中学校・高校留学フェア」プログラム内容

第1回 → 「留学に対する動機付け」「留学の疑似体験」「留学方法の提示」を通して、生徒に留学への行動を促す。

講演「アメリカ留学：高校留学から大学・社会人留学まで」

〈講師〉 在福岡米国領事館広報部 カグノ麻衣子 氏

協議・発表「留学先で、何に挑戦し、何を学ぶべきか」

「留学先で、新しい環境にどのように溶け込むか」

「留学先で、日本や大分の何を、どのように紹介するか」

「留学のために、今何をすべきか」等

〈講評〉 在福岡米国領事館広報部 カグノ麻衣子 氏

留学経験者（高校生）13名がグループ協議に加わり、各テーマについて、参加者にアドバイスする。

- ・大分県教育委員会による留学支援事業の概要説明（留学支援金等）
- ・留学支援団体（7団体）による個別留学相談

第2回 → 第1回プログラムの一部を英語で行い、更なる留学意欲の向上を図る。

講演「世界に飛び出そう！目指せ！グローバル人材！」

〈講師〉 実践コミュニケーション研究所代表 西田弘次 氏

発表①「私が留学で学んだこと」〈発表者〉 留学経験者（高校生）

発表②「私の留学プラン」 〈発表者〉 参加した全ての中学・高校生

〈助言者〉 留学経験者（高校生）

発表③「海外での生活・学習について」（使用言語：英語）

〈発表者〉 海外大学卒業者（ALT）

留学経験者（高校生）13名、海外大学卒業者（ALT）9名がグループ別発表に加わり、参加者からの質疑に応じる。

- ・説明「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」
〈説明者〉 文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクト 香田光 氏
- ・大分県教育委員会による留学支援事業の概要説明（留学支援金等）
- ・留学支援団体（7団体）による個別留学相談

参加者各自が留学について調査

○留学ガイド

平成28年度から、県内の中学生、高校生及び保護者を対象に、留学への参加啓発を目的とした留学案内を作成している。内容は「期間別・国別留学制度の説明」「留学経験者による感想」「留学Q&A」「留学支援団体の紹介」など。平成29年度は、留学フェアの参加者、各高校の国際理解教育担当教員などに「留学ガイド」を配布した。



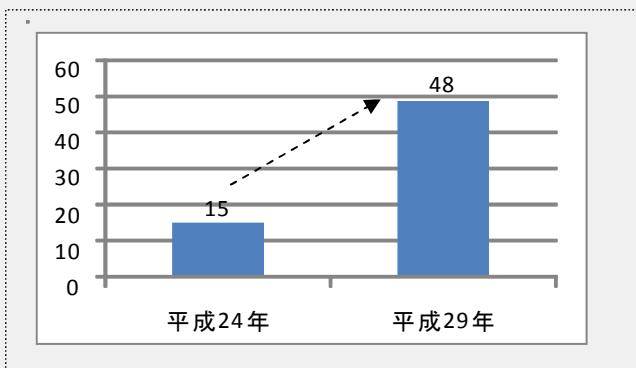
(4) 海外大学進学への相談体制の整備

平成28年度から、各学校に国際理解教育担当者を定め、留学や海外進学に対する相談窓口の整備を行っている。平成29年度は、県立高校38校に国際理解教育担当者を設置した。

【成果】

- ◎グローバルリーダー育成塾、留学フェアの開催
- ◎Web会議システムの導入
- ◎国際交流サポーターの設置
- ◎留学支援金制度の活用
- ◎留学ガイドの作成
- ◎県立学校における国際理解教育担当者の設置
- ◎短期留学生数の増加（県立高校）

[短期留学生数の推移]



【課題】

- 長期留学生数（県立高校）
 - 平成29年度は3名であり、平成24年度（5名）に比べ減少。
- 海外大学への進学者数
 - 県立高校から海外大学への進学や、海外大学進学のためにコミュニティカレッジ等に入学する生徒は2名に止まる（平成29年度）。
- 平成29年度全国学力・学習状況調査
 - 「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたい」と答える小・中学生は依然として3割～4割に止まる。
- 平成29年度「国際交流状況等調査」※高校教育課調査
 - 留学に前向きな高校生の割合は約4割である。この数値は平成24年度調査から変化していない。

2 多様性を受け入れ協働する力の育成

大分県グローバル人材育成推進プラン（第1ステージ）で設定した取組

(1) 小・中学校における異文化理解活動の推進
(2) 小・中学生を対象としたイングリッシュ・キャンプの継続的实施
(3) 県立学校での海外姉妹校協定の締結等に基づく国際交流の推進
(4) S G Hの取組の普及
(5) ホームステイ受け入れの活用方策の検討
(6) 国際バカロレアの認定に向けた研究
(7) 異文化理解の推進の観点からのA L Tの活用

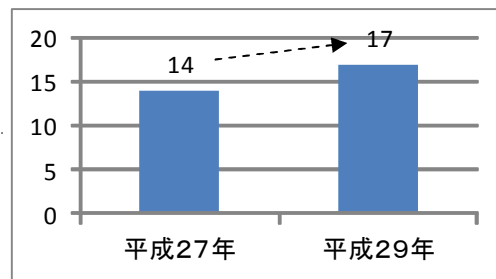
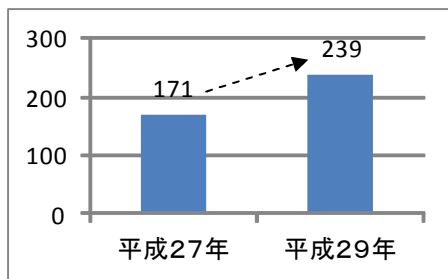
(1) 小・中学校における異文化理解活動の推進

小・中学校における国際交流活動や、小学校の外国語活動・総合的な学習の時間等における異文化理解活動について、市町村教育委員会の国際理解教育担当者等の参加による情報交換会を開催している。平成28年度に情報交換会を開催し、各市町村・教育事務所の担当者が参加した。

(2) 小・中学生を対象としたイングリッシュ・キャンプの継続的实施

平成27年度から、英語コミュニケーション能力の育成と、世界に挑戦し、多様な価値観を持った者と協働するグローバル人材の素地を培うことを目的として、小学校5・6年生と中学校1・2年生を対象に、英語を使った様々な活動を行っている。平成29年度のキャンプ応募者数は、平成27年度から約40%増加し、のべ30名のA L Tが児童・生徒と英語を使って交流した。

[キャンプ応募者推移(小中合算)] [キャンプ参加市町村数推移(小中合算)]



[参加者の感想]

- * 英語は様々な人と交流するために必ず必要なので、しっかり勉強して、最低限少しでも会話ができるようにがんばりたい。
- * 英語を使わないと通じない環境だったので、積極的に話す力が付いた。
- * 英語で自分のことを話したり、相手のことを聞いたりするのはすごく楽しかった。

[参考]

「平成29年度小学生・中学生イングリッシュ・キャンプ」プログラム内容

小学生イングリッシュ・キャンプ（1泊2日）

（目的）外国語指導助手等との交流活動を通して、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら、中学校の英語学習への円滑な接続を図る。

- （活動）
- ①絵本を読もう：英語の絵本を読む
 - ②歌を歌おう：英語のリズムや音に慣れる
 - ③日本と外国の遊び：簡単な英語表現を学び、活用する
 - ④文化交流会：世界8カ国の文化や歴史を学ぶ
 - ⑤ゲーム：簡単な英語表現を学び、活用する
 - ⑥思い出フラッグづくり：キャンプの思い出を英語で書く

活動⑥では、児童がキャンプ中に学んだ英語を使って、旗に活動の思い出を書き、ALTや参加者と共有する。

中学生イングリッシュ・キャンプ（2泊3日）

（目的）外国語指導助手等との活動や英語を使った生活を体験することを通して、英語学習・英語使用のさらなる意欲付けを図るとともに、外部検定試験受験への挑戦意欲を喚起する。

- （活動）
- ①How to write Journals：日記の書き方を学ぶ
 - ②We're Shopping：買い物で使う英語表現を学ぶ
 - ③Let's Sing！：英語のリズムや音に慣れる
 - ④Reading：科学技術に関する英文を読む
 - ⑤Japan and Me：英語によるプレゼンテーションを聞く
 - ⑥Chit Chat：身近な話題について英語で意見交換する
 - ⑦Cultural Night：世界8カ国の文化・歴史を学ぶ
 - ⑧Let's introduce Japan：日本のアニメを英語で紹介する

活動⑧では、各グループが日本のアニメについて調べ、ICT機器を活用して、英語でプレゼンテーションを行う。



(3) 県立学校での海外姉妹校協定の締結等に基づく国際交流の推進

平成27年度以降、由布高校・大分商業高校・大分舞鶴高校が、新たに海外の高校と交流を開始。

平成28年度は、県立高校5校約900名の生徒が海外修学旅行に参加。

[海外姉妹校/交流校一覧(平成29年度)]

国・地域	海外姉妹校/交流校	学校名
タイ	ロブリー科学高校	大分舞鶴高校
韓国	嶺西高校	由布高校
	木浦女子商業高校	大分商業高校
台湾	小港高級中学校	由布高校
イギリス	ラグビー校	大分舞鶴高校
ニュージーランド	ウェスタンハイツ ハイスクール	別府翔青高校

[海外修学旅行訪問国一覧(平成28年度)]

訪問国・地域名	学校名
ベトナム	大分上野丘高校
ベトナム・カンボジア	大分舞鶴高校
アメリカ	大分豊府高校
シンガポール・マレーシア	大分商業高校
ニュージーランド	別府翔青高校

(4) SGHの取組の普及

大分県立大分上野丘高校は、平成26年度から国のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受け、取組を進めてきた。APU学生との課題探究活動や海外研修等を通してグローバルリーダーに必要な資質・能力の育成に努めるとともに、成果発表会やグローバルリーダー育成塾等での取組内容の普及を行ってきた。

[研究開発の内容]

項目	内容		
	1 学期	2 学期	3 学期
○公民科、情報科及び英語科TTによるディスカッション型授業 ○APU との日常的・継続的な連携	大分から見た世界（1年生・全員）		
	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ別授業・企業講演会等 ①暮らし・生活 ②産業・経済 ③環境・資源 ④自然・文化 ●フィールド・ワークⅠ（県内） 	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ決定、研究開始 ●APU学生との協働学習 ●ショート・レポートの作成 ●中間発表会 ●海外研修（豪州・パース） 	<ul style="list-style-type: none"> ●成果発表会 ●レポート仕上げ
○地元企業との連携 ○国内外でのフィールド・ワークによる課題の追究	グローバル社会の共創Ⅰ（2年生・選択者）		
	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ決定、レポート作成開始 ●APU国際学生との協働学習 ●海外修学旅行事前学習 	<ul style="list-style-type: none"> ●ロング・レポートの作成 ●フィールド・ワークⅡ（APU） ●海外修学旅行（ベトナム） 	<ul style="list-style-type: none"> ●経過報告会 ●課題整理
○プレゼンテーションの機会の提供	グローバル社会の共創Ⅱ（3年生・選択者）		
	<ul style="list-style-type: none"> ●レポート作成 ●APU国際学生との協働学習 	<ul style="list-style-type: none"> ●成果発表会 ●ロング・レポートの発信 	

[取組の成果]

活動指標	平成26年度	平成29年度
課題研究に関する国外の研修参加者数	0人	10人
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数	0校	5校
自主的に留学または海外研修に行く生徒数	4人	8人
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合	30%	85%(SGH) 65%(SGH以外)
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合	60%（H27）	94%(SGH) 70%(SGH以外)

(5) ホームステイ受け入れの活用方策の検討

○訪日教育旅行の受入促進

アジアの国々を中心に、各高校が訪日教育旅行団等の生徒及び教員を受け入れ、授業・部活動体験、文化交流、意見交換会などを実施している。平成29年度は、県立高校19校が世界9カ国・地域から、延べ586人を受け入れた。

[訪日教育旅行等受入実績（平成29年度）]

受入日	受入高校	国・地域	学校名	訪日人数
4/26～ 4/28	大分舞鶴	タイ	ロップリー科学高校	14
5/9	佐伯鶴城	台湾	苗栗縣建臺高級中学校	32
5/16	大分商業	台湾	臺中市葳格高級中学校	78
6/15	爽風館	アメリカ	アメリカの高校	5
7/18	中津東	韓国	大京商業高校	16
8/28	大分工業	韓国	水原工業高校	37
9/5～ 9/8	大分南	韓国	大山高校	20
9/25	別府鶴見丘	中国、ベトナム	中国、ベトナムの高校	14
9/28	海洋科学	韓国	韓国海洋水産研修院	40
10/19	宇佐	台湾	台湾教育関係者訪問団	10
10/25	由布	台湾	高雄市立小港高級中学校	20
10/27	別府鶴見丘	インドネシア	インドネシア国立高校	24
11/9	大分工業	韓国	長溪工業高校	8
11/10	佐伯豊南	中国	義烏中学校 天台中学校	31
11/17	杵築	インドネシア	インドネシア国内の各高校	25
11/21	佐伯豊南	韓国	松谷観光高校	17
12/6	鶴崎工業	台湾	国立彰化師範大学附属 高級工業職業学校	36
12/12	大分雄城台	台湾	国立嘉義高級中学校	35
12/14	玖珠美山	台湾	啓英高級中学校	16
12/14	国東	マレーシア	マレーシアの高校	4
1/17	大分商業	韓国	城東グローバル経営高等学校	19
1/22	別府翔青	韓国	白山高校	15
1/29	大分上野丘	台湾	松山高級中学校	32
2/16	別府鶴見丘	イギリス	バース市の高校生 (ラグビークラブ)	38
合計				586

（６）国際バカロレアの認定に向けた研究

国際バカロレア認定校の視察、文部科学省及び国際バカロレア機構主催セミナーへの参加等を通して、国際バカロレアの制度や探究的な授業手法について研究を行っている。

[国際バカロレアに係る調査・研究実績]

日 時	視察高校・参加セミナー名	場所
平成 27 年 3 月	東京インターナショナルスクール (国際バカロレア機構アジア太平洋地区委員との懇談)	東京
	国際バカロレア導入の検討を行う教育委員会の 情報交換会	
平成 27 年 10 月	国際バカロレア導入の検討を行う教育委員会の 情報交換会(第 2 回)	東京

（７）ALT（外国語指導助手）の活用

これまでの学校内の授業補助業務に加えて、イングリッシュ・キャンプでの指導、留学フェアでの体験報告、グローバルリーダー育成塾での協議・発表のコーディネーターなど、学校内外で幅広く活躍している。平成 29 年度は、県主催のセミナーや国際交流活動等に、のべ 57 人の ALT が参加した。

[県教育委員会主催行事への ALT 参加者数（平成 29 年度）]

活動名	実施日	参加人数
中学生イングリッシュ・キャンプ	7/29～8/27	13
小学生イングリッシュ・キャンプ	8/26～8/27	17
第 2 回中学・高校留学フェア	10/15	9
第 4 回グローバルリーダー育成塾	12/9	18

【成果】

- ◎国際理解教育に関する情報交換会の開催（各市町村・教育事務所対象）
- ◎小・中学生イングリッシュ・キャンプの開催
- ◎姉妹校の締結、訪日教育旅行の受入等、国際交流の推進
- ◎SGH（スーパーグローバルハイスクール）の取組の普及
- ◎国際バカロレアの認定に向けた研究の推進
- ◎ALT（外国語指導助手）の活用の拡大

【課題】

- 第 1 ステージ指標
 - グローバル人材育成推進プラン策定時に定めた指標「一定期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験がある生徒」については目標に達していない。

平成 26 年度	17.5%	⇒	平成 29 年度	22.4%
----------	-------	---	----------	-------

3 大分や日本への深い理解の促進

大分県グローバル人材育成推進プラン（第1ステージ）で設定した取組

(1) 教材の作成・活用を通じた郷土学習の充実
(2) 郷土の歴史遺産等の学習
(3) 郷土や日本についてプレゼンテーションする機会の充実

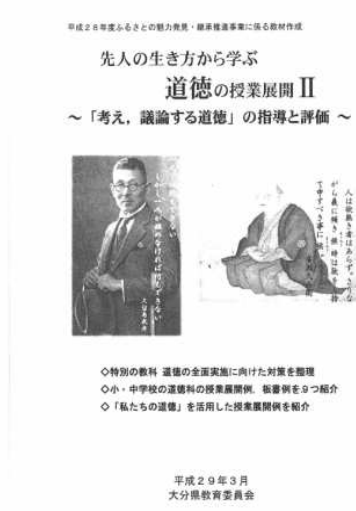
(1) 教材の作成・活用を通じた郷土学習の充実

県教育委員会では、平成26年度から、子どもたちの郷土を愛する心の育成を目指す「ふるさとの魅力発見・継承推進事業」に取り組んできた。この事業において、「二孝女」の逸話や「重光葵」の生き方を扱う教材「先人の生き方から学ぶ道德の授業展開」や、ハンドブック「道德科～評価と授業構想のあり方～」を作成している。また、大分県立先哲史料館では「世界を見つめた人々と豊後三賢」を作成するなど地域教材の充実を図っている。

「先人の生き方から学ぶ道德の授業展開」「道德科～評価と授業構想のあり方～」は実際の道德の授業で活用している。「世界を見つめた人々と豊後三賢」はグローバルリーダー育成塾の参加者全員に配布した（「高校生サミット」では、別府翔青高校の生徒が同教材を活用し、英語でプレゼンテーションを実施）。

[地域教材一覧]

教材名	作成者
先人の生き方から学ぶ道德の授業展開 ～魅力あふれる郷土の先人～（平成28年3月）	大分県教育委員会 （義務教育課）
先人の生き方から学ぶ道德の授業展開Ⅱ ～「考え、議論する道德」の指導と評価～（平成29年3月）	
道德科～評価と授業構想のあり方～（平成30年3月）	
世界を見つめた人々と豊後三賢	大分県立先哲史料館



(2) 郷土の歴史遺産等の学習

平成26年度から平成28年度の間、家庭・地域と学校が、協働して子どもたちにふるさとの魅力を継承していく機運を醸成することをねらいとして、「ふるさと県民フォーラム」を開催した。県内3箇所ですバス巡見の報告やシンポジウム・講演等を行い、延べ850名が参加した。

実施年度	実施場所	参加者
平成26年度	中津・別府教育事務所管内（中津市）	約50名
平成27年度	大分・佐伯教育事務所管内（臼杵市）	約400名
平成28年度	日田・竹田教育事務所管内（日田市）	約400名

(3) 郷土や日本についてプレゼンテーションする機会の充実

県立学校では、グローバルリーダー育成塾・海外修学旅行等でのディスカッションや交流活動を通して、高校生が大分県や日本について考え、プレゼンテーションを行う機会を数多く提供している。また、総合的な学習の時間等を利用した地域学習の取組も行われ、地域と連携し、地域が抱える課題やその解決策を探究することで、地元の活性化に貢献している。



小・中学校においては、県民フォーラム、世界農業遺産中学生サミットや「学びに向かう学校」づくり中核校連絡協議会等において、自分たちの思いや考えを伝えたり、相手の話を聞いて考える機会を設けている。

【成果】

- ◎地域教材の作成・活用
- ◎ふるさと県民フォーラムの開催
- ◎郷土や日本についてプレゼンテーションする機会の充実

【課題】

- 郷土学習
 - 郷土への愛情や誇りが育まれていくよう、郷土の発展に尽くした先人や、郷土の芸術、歴史遺産などについて知る機会を更に充実させる必要がある。
- 考え伝える活動を通じた理解の深化
 - 大分県や日本への深い理解を図るには、県や日本が抱えている課題の解決方法を考えたり、これらのことを他者に伝えたりすることが重要であり、このような活動を更に進める必要がある。

4 知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力の育成

大分県グローバル人材育成推進プラン（第1ステージ）で設定した取組

(1) 「新大分スタンダード」に基づく授業展開の推進 <小中学校>
(2) ユネスコスクールへの認定による探究学習の推進
(3) 学びに向かう学校づくりによる学校改善や授業改善の推進 <中学校>
(4) 思考力、判断力、表現力を求める高校入試改革
(5) 思考力、判断力、表現力を高める授業改善の計画的な推進 <高校>

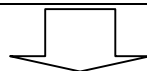
(1) 「新大分スタンダード」に基づく授業改善の推進 <小・中学校>

県教育委員会では、「学びに向かう力」と思考力、判断力、表現力を育成するワンランク上の授業を目指して、「新大分スタンダード」に基づく授業展開を推進し、着実に成果が表れてきている。

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果、小学校は全ての教科で全国平均を上回っており九州トップレベルを維持、中学校についても九州トップレベルを達成した。

[新大分スタンダード]

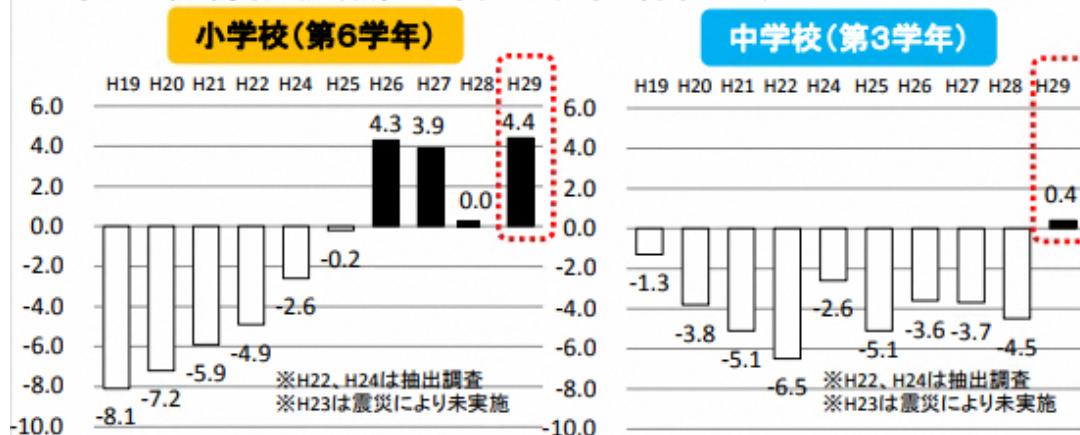
- 1 1時間完結型
- 2 板書の構造化
- 3 習熟の程度に応じた指導
- 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開



◆学習意識の変化

大分県学力定着状況調査の項目	平成26年度	平成29年度
英語の授業が分かると答える生徒（中学生）の割合	57.0%	65.6% (全国 59.9%)
英語が好きと答える生徒（中学生）の割合	53.7%	59.1% (全国 53.7%)

◆学力の経年変化(大分県と全国との平均正答率の差)



(2) ユネスコスクールへの認定による探究学習の推進

平成29年現在で、小学校1校、中学校2校、高等学校2校の計5校が指定されESD教育を推進している。

この他、佐伯市立宇目緑豊中学校は、平成28・29年度に国立教育政策研究所の指定を受けており、ESDの研究を進めることで、生徒の思考力と主体的に学習しようとする態度の育成を図っている。

[ユネスコスクール認定校一覧]

認定年月	学校名
平成27年6月	大分市立鶴崎中学校
平成29年2月	大分県立臼杵高等学校
平成29年2月	大分県立三重総合高等学校
平成29年3月	姫島村立姫島小学校
平成29年4月	姫島村立姫島中学校

(3) 「学びに向かう力」を高める学校改善の推進 <中学校>

平成29年度は、「中高の学びをつなぐ連携協議会」において、中学校と高校教員が合同で生徒の思考力、判断力、表現力を育成するための授業改善等について協議した。

(4) 思考力、判断力、表現力を求める高校入試改革

平成27年度高校入試から、試験時間を延ばし、中学校全国学力・学習状況調査も参考にしながら、思考力、判断力、表現力を問う問題の充実を図っている。

(5) 思考力、判断力、表現力を高める授業改善の計画的な推進 <高校>

平成27年度から、県教育委員会では、県立高等学校授業改善実施要領を定め授業改善の取組を進めている。その中で、各学校は「授業改善スクールプラン」を、各教員は「授業改善マイプラン」を作成し、組織的な授業改善を推進している。

【成果】

- ◎「新大分スタンダード」を活用した授業改善の推進（小中学校）
- ◎ユネスコスクール認定校の拡大
- ◎「授業改善スクールプラン」「授業改善マイプラン」を活用した組織的な授業改善の推進（高校）
- ◎高校入試における思考力、判断力、表現力を問う問題の充実

【課題】

- 思考力、判断力、表現力育成のための継続的な授業改善（小・中学校）
→ 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果から、小・中学校共に、A問題（知識）よりB問題（活用）に課題が見られる。

[平成29年度全国学力・学習状況調査]

小学校（第6学年）の平均正答率

（※数値は公立学校のみ ※後日実施は含まない）

教科・区分	国語A （知識）	国語B （活用）	算数A （知識）	算数B （活用）
大分県	76%	58%	81%	46%
全 国	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%

中学校（第3学年）の平均正答率

（※数値は公立学校のみ ※後日実施は含まない）

教科・区分	国語A （知識）	国語B （活用）	算数A （知識）	算数B （活用）
大分県	79%	73%	64%	47%
全 国	77.4%	72.2%	64.6%	48.1%

- 学校全体での思考力、判断力、表現力育成の重要性の共有と実践（高等学校）
→ 各学校で授業改善に取り組んでいるが、各学校で授業が分かると答える生徒の割合に伸びが見られない。

調査項目	平成27年	平成29年
「授業が分かる」と答える生徒の割合	36.8%	30.9%

平成29年度学習習慣実態調査

5 英語力（語学力）の育成

大分県グローバル人材育成推進プラン（第1ステージ）で設定した取組

(1) 「大分県英語教育改善推進プラン」の策定

(2) 「大分県英語教育改善推進プラン」に基づく英語教育の改善

(1) 「大分県英語教育改善推進プラン」の策定

大分県グローバル人材育成推進プランに基づき、平成27年度に大分県英語教育改善推進会議を開催した。この会議の中で、大分県英語教育の現状を把握した上で、平成28年度末に改善すべき方策を定め、取組方針、達成目標及び具体的改善方法を次のように定めた。

「大分県英語教育改善推進プラン」

○取組方針

英語を使って、自分を語り、ふるさとを語る、大分っ子の育成
～発信力の育成を目指した授業改善を通して～

○達成目標

- ・ 高校卒業段階 平成30年度末までに英検準2級程度以上の生徒の割合が50%以上
- ・ 中学卒業段階 平成30年度末までに英検3級程度以上の生徒の割合が50%以上

○具体的改善方法

I 小・中・高等学校の各学校段階での学習到達目標を明確にする。

- ① 平成29年度までに中学校、高等学校ともに、全学校（100%）で「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を設定し、その達成状況の把握も行う。
- ② 小学校についても、高学年での教科化を見据え、各学校での学習到達目標の設定を検討する。その際、CEFR-JのPreA1を参考にする。
- ③ 中学校は各学年で年2回以上、高等学校では各科目で年2回以上は「話す力」「書く力」を適切に評価するパフォーマンステストを実施する。等

II 教員の英語力・指導力の向上を図る。

- ① 中学校、高等学校においては、県が実施する英語担当教員指導力向上研修を全員が受講する。小学校においては、平成30年度まで計画的な研修を実施する。
- ② 中学校においては、「新大分スタンダード」に基づく取組を充実させることで、「学びに向かう力」と思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
- ③ 高等学校においては、英語担当教員が作成する「授業改善マイプラン」を活用して、生徒の発信力を高める指導について計画・実践する。
- ④ 文部科学省が示す教員の英語力の到達目標の達成を目指す。
- ⑤ 小学校においては、平成32年度からの新学習指導要領の全面実施に備え、小学校教員の英語指導力を高めるための研修を実施する。等

Ⅲ 目標を達成するために、検証・改善のサイクルを確立する。

- ① 毎年実施する英語教育実施状況調査等の結果に基づき、各学校の授業研究会や教科の研修会等において外国語（英語）担当指導主事等による指導・助言を行う。
- ② 教育委員会は本プランの達成状況を検証し、本県の英語教育の改善を推進する。等

(2) 「大分県英語教育改善推進プラン」に基づく英語教育の改善

○英語担当教員指導力向上研修の実施

県内の中学校・高等学校の英語担当教員に対し、年間5回の指導力向上研修を実施。外部講師による講演や、英語教育推進リーダーによる研修等により各自のスキルアップを図っている。

○授業改善の推進

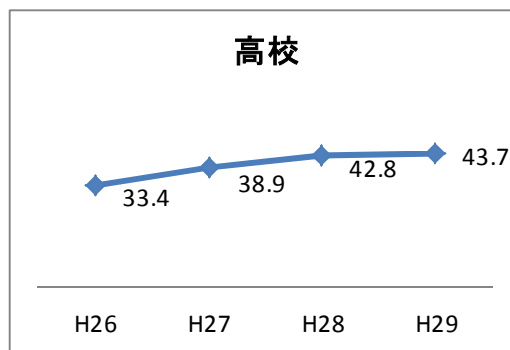
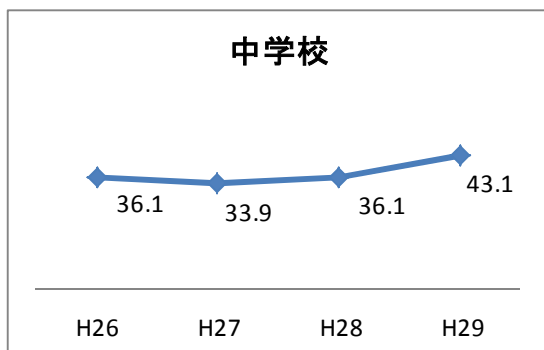
中学校では「新大分スタンダード」、高等学校では「授業改善マイプラン」「授業改善スクールプラン」に基づく授業改善を実施している。

○大分県英語教育改善推進研修（小中高合同研修）

平成28年度から、外部講師を招き、小中高の教員が合同で研修を実施。それぞれの授業スキルを向上させるとともに、小中高の教員が協議を行うなど、校種間の連携を図っている。

[参考]

文部科学省・英語教育実施状況調査
「求められる英語力を有する生徒の割合」

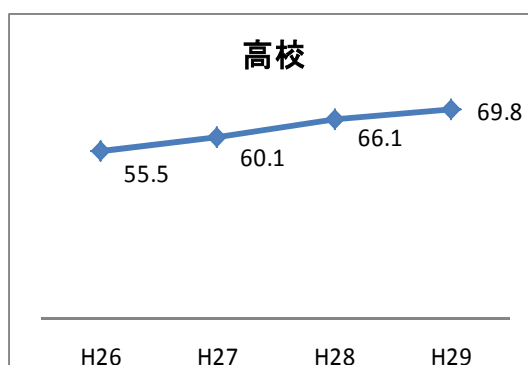
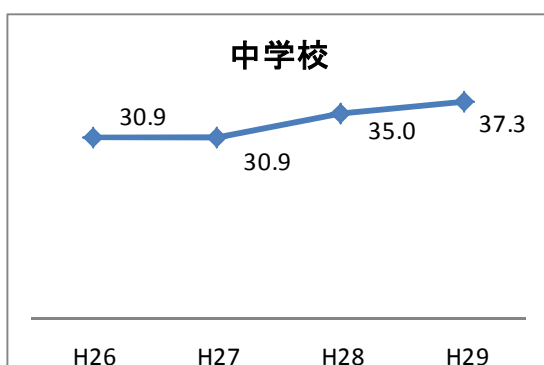


* 求められる英語力

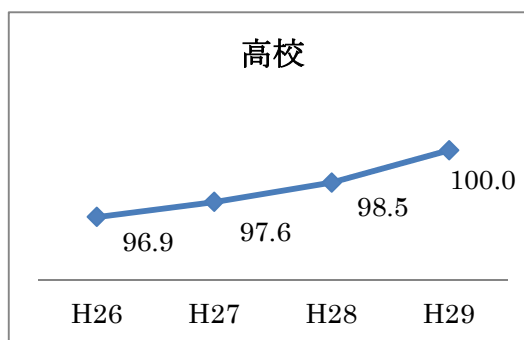
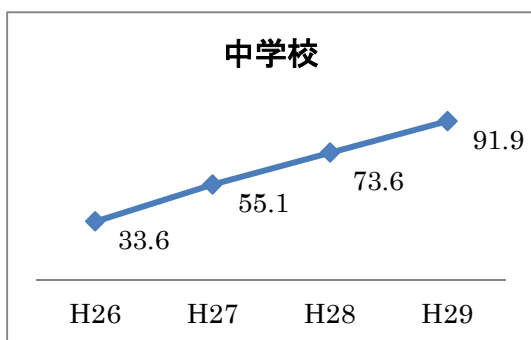
中学生：英検 3 級以上を取得している生徒及び相当の英語力を有すると思われる生徒の割合

高校生：英検準 2 級以上を取得している生徒及び相当の英語力を有すると思われる生徒の割合

文部科学省・英語教育実施状況調査
「求められる英語力（英検準 1 級相当以上）を有する教員の割合」



文部科学省・英語教育実施状況調査
「Can-Do リスト」形式の学習到達目標を設定している学校の割合



* 高校は設定している学科の割合

【成果】

- ◎「大分県英語教育改善推進プラン」の策定・推進
- ◎各種研修、授業改善による生徒、教員の英語力向上

【課題】

●文部科学省・英語教育実施状況調査

→「求められる英語力を持つ生徒の割合」「求められる英語力を有する教員の割合」は共に上昇傾向にあるが、国の目標値には届いてない。

[生徒の英語力]（再掲）

求められる英語力を有する生徒の割合		大分県	国の目標
高等学校	英語検定準2級以上保持者または英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる高校生の割合	43.7%	50%
中学校	英語検定3級以上保持者または英検3級以上相当の英語力を有すると思われる中学生の割合	43.1%	50%

[英語担当教員の英語力]（再掲）

求められる英語力を有する教員の割合		大分県	国の目標
高等学校	英検準1級以上等を取得している教員の割合	69.8%	75%
中学校	英検準1級以上等を取得している教員の割合	37.3%	50%

Ⅲ 第1ステージの分析・検証

これまで、5つの資質・能力毎に第1ステージの取組の成果や課題について述べてきた。ここでは総合的に、指標の分析・検証を行う。

(1) 指標について

プラン第1ステージでは、「5つの力の総合力」の育成度合を把握するため、2つの指標を定めた。各指標の結果は以下のとおり。

指標① 国際的に活躍する資質・能力をもった生徒の割合（高校2年生対象）

平成26年度 40.0%

→

平成29年度 48.1%
(目標値：46.0%)

[指標①の根拠となる5つのアンケート調査結果]

質問	肯定的回答の割合
外国へ留学したり、国内外を問わず海外と関わる仕事に就いたりしてみたいと思うか。	H26: 29.3% H29: <u>30.5%</u>
自分と異なる意見や価値観をもった人とも協力して、目標に取り組むことができているか。	H26: 84.4% H29: 83.7%
外国人に対し、大分や日本のことを、日本語や英語（外国語）で伝えたり説明したりすることができるか。	H26: 27.3% H29: 46.6%
学んだ知識を活かして、自分で考え、判断して、分かりやすく伝えることができているか。	H26: 45.8% H29: 62.8%
英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができるか。	H26: 20.6% H29: <u>24.9%</u>

この結果から、指標①については以下のように分析する。



○指標①は目標値を達成しており、第1ステージの取組によって、グローバル人材に必要な「5つの力の総合力」は着実に育成されていると言える。

○一方、「挑戦意欲と責任感・使命感」及び「英語力（語学力）」を測る指標として定めた以下2項目については数値が低く、第2ステージにおいて重点的に取り組んでいく必要がある。

- ・外国へ留学したり、国内外を問わず海外と関わる仕事に就いたりしてみたいと思うか（30.5%）→ 挑戦意欲と責任感・使命感の不足
- ・英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができるか（24.9%）→ 英語力（特に発信力）の不足

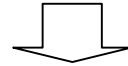
指標② 一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験（高校3年生対象）

平成26年度 17.5%

→

平成29年度 22.4%
(目標値: 35.0%)

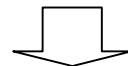
この結果から、指標②については以下のように分析する。



- 「挑戦意欲と責任感・使命感」「多様性を受け入れ協働する力」を測る指標として定めた指標②は、平成26年度に比べて上昇しているが、目標値には達していない(22.4%) → 継続的な国際交流機会の不足
- この点についても、第2ステージにおいて重点的に取り組んでいく必要がある。

(2) 英語教育に関わる国の動向について

- ・学習指導要領の改訂により、平成30年度の移行期から小学校3、4学年で外国語活動が開始され、小学校5、6学年では外国語が教科化される。
- ・中学校及び高等学校の新たな学習指導要領において従来の4技能(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」)のうち「話すこと」が新たに「話すこと(やりとり)」と「話すこと(発表)」の2領域として設定されるなど、互いの考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動が一層重視されるようになった。
- ・高大接続改革により、平成32年度からは大学入試における4技能試験の導入が予定されている。



- 小学校外国語教育の早期化・教科化への対応が求められる。
- 小・中・高等学校を通じた英語4技能のバランスのとれた育成、及び発信力の強化が求められる。

(3) 分析・検証結果:

「指標」「国の動向」の分析・検証を踏まえ

- 5つの力の総合力の育成については概ね順調であり、この取組を継続する。
- 「挑戦意欲と責任感・責任感」「英語力(語学力)」の育成と「継続的な国際交流機会」の確保には改善が必要。
- 小学校外国語教育への対応が求められる。

IV 第2ステージの取組

これまでの分析・検証から、第2ステージについても、第1ステージの「5つの力の総合力」の育成について以下のとおり取り組む。また、この中でも下線を付した内容については重点的に取り組むものとする。

1 「挑戦意欲と責任感・使命感」育成のための取組

国際的視野の涵養

短期・長期の留学や海外への進学、グローバルな課題への挑戦などの国際的な視野を育む取組を充実させる。

○【重点】国際的に活躍する人々に触れる機会の一層の充実（グローバルリーダー育成塾、留学フェア等）

- ・ 県教育委員会主催のセミナー（グローバルリーダー育成塾）等を利用し、生徒がグローバルに活躍している人物に触れる機会を充実させる。（毎年度複数回）

○留学支援金支給、留学フェアの実施等による留学への積極的な支援の充実

- ・ 国費による留学支援事業の積極的な利用促進を図ると同時に、学校のプログラムによらない個人単位での海外留学・研修についても支援の充実を図る。
- ・ 高校生長期留学者（平成29年度：3人）を、平成32年度10人に増加。
- ・ 高校生短期留学者（平成29年度：48人）を、平成32年度60人に増加。
→長期留学は3ヶ月以上、短期留学は2週間以上3ヶ月未満の期間を指す。

○留学の気運の醸成や情報提供の充実

- ・ 生徒、保護者、教員を対象に毎年度2回留学フェアを実施し、留学経験者や海外大学卒業者との意見交換会や留学支援団体による説明会等の機会を提供する。
- ・ 留学に関する具体的な情報や、支援制度、留学体験者の声などを紹介する「留学ガイド」を継続的に作成し、広く生徒、教員に配布するとともに、効果的なホームページの活用等を進める。

○海外大学進学への相談体制の整備

- ・ 海外大学に進学したいという生徒の希望に応えられるよう、生徒や教員からの進学相談に乗ることができる体制を充実させる。
- ・ 海外大学への進学相談を受けられる相談窓口の設置について検討する
- ・ 「留学ガイド」の中に、海外大学への進学についても盛り込む。

2 「多様性を受け入れ、協働する力」育成のための取組

継続的な国際交流の充実

各学校の国際交流の取組をより継続的なものに発展させる。

○【重点】県立学校における姉妹校の締結やW e b会議システム等の活用による国際交流の推進

- ・ 県立学校における海外校との姉妹校協定の締結やW e b会議システムの活用などを通じ、留学・留学生受け入れや、海外修学旅行の充実など、国際交流、協働活動を推進する。また、必要に応じ市町村教育委員会と連携し、小・中学校でも推進する。

○小・中学校における異文化理解活動の推進

- ・ 小・中学校における国際交流活動や、小学校の外国語活動・外国語や総合的な学習の時間等における異文化理解活動について、市町村間・学校間で情報共有できる機会を設ける。
- ・ 県教育委員会主催の国際交流情報交換会を定期的に行う。

○小・中学生を対象としたイングリッシュ・デイ・キャンプの継続的实施

- ・ 外国人との英語を使った活動を行うイングリッシュ・デイ・キャンプを毎年度2回以上開催する。

○訪日教育旅行団、ホームステイ受け入れの活用方策の検討

- ・ 訪日教育旅行団やホームステイプログラム等を活用した国際交流活動の推進を図る。

○国際バカロレアの認定に向けた研究

- ・ 市町村教育委員会とも連携し、国際バカロレアの認定を受けることについて研究を行う。

○A L T等の活用による異文化理解の推進

- ・ 児童生徒の異文化理解の推進を図る観点からのA L T等の活用について検討するとともに、各学校等に働きかける。

3 「大分県や日本への深い理解」促進のための取組

伝統や文化に関する教育の充実

教育を通して大分県や日本の伝統や文化に関する理解を深め、外国人や自分の周り以外の日本人に対して正しく伝える。

○道徳の時間等を通じた郷土学習の充実

- ・郷土の発展に尽くし伝統と文化を育てた先人について県民と協働して作成した教材等を用いて、小・中学校の道徳や音楽・美術等での郷土学習を充実する。
- ・我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心を持つことの大切さについて考える機会を設ける。

○郷土学習を進める外部人材の活用

- ・小・中学生が郷土の音楽、美術等を体験的に学ぶ機会を充実させる。
- ・地域の音楽・美術等に関わる出前授業を行ってくれる外部人材を活用し、体験的な学習を通して郷土の音楽・美術等を学ぶ機会を充実する。

○プレゼンテーションを通じた郷土や日本についての理解の深化

- ・県教育委員会主催のセミナー、各学校における課題研究の発表会や海外姉妹校等の交流を活用して、高校生が郷土や日本について考え、プレゼンテーションする機会の充実を図る。

4 「知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力」育成のための取組

主体的・対話的で深い学びを実現する授業の推進

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする。

<小・中学校>

○「新大分スタンダード」に基づく授業展開の推進

- ・「学びに向かう力」と思考力、判断力、表現力を育成するワンランク上の授業を目指し、新大分スタンダードに基づく主体的・対話的で深い学びを実現する学習展開を推進する。

<中学校>

○「学びに向かう力」を高める学校改善の推進

- ・中学校生徒の「学びに向かう力」と思考力、判断力、表現力等の育成について、講演会や協議会を通じて、関係者による共通認識を図り、「学びに向かう学校」づくりの推進を働きかける。
- ・このための実践モデル校を設置し、その普及を図る。

<高校>

○思考力、判断力、表現力を高める授業改善の計画的な推進

- ・思考力、判断力、表現力を育成するための「県立学校授業改善実施要領」に基づき、各学校及び教員がそれぞれ授業改善スクールプラン、授業改善マイプランを定め、授業改善の取組を進める。
- ・思考力、判断力、表現力の育成を進める研究指定校を設置し、その研究内容の普及を図る。

5 「英語力（語学力）」育成のための取組

英語「発信力」の強化

目的や場面、状況などに応じて、外国語でコミュニケーションを図る力を育成する。

○【重点】「大分県英語教育改善推進プラン」に基づく英語力育成

（高大接続改革に向けた小・中・高等学校を通じた英語による発信力の育成）

- ・小中高各学校段階の学びを円滑に接続し、発信力の育成を目指した授業改善を通して、英語を使って、情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力の育成を目指す。
- ・CAN-DO リストの活用：
各学校で定めた CAN-DO リストを活用し「聞く・読む・話す（発表・やり取り）・書く」のバランスがとれた授業を推進する。
- ・小中高の円滑な接続：
英語担当教員指導力向上研修（中高合同の悉皆研修）、大分県英語教育改善推進研修（小中高合同研修）、外部専門機関と連携した英語指導力向上事業に係る研修協力校小中高合同研修、中高の学びをつなぐ連携協議会等の研修の機会を活用し、校種間の連携強化を図る。
- ・4技能5領域（「聞く」「読む」「話す（やり取り・発表）」「書く」）のバランスのとれた言語活動を通じた発信力の育成：
児童生徒が情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりできるよう指導する必要がある。特に、互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視し、児童生徒が「自分」や「ふるさと」を語る発信力を育成する取組を小・中・高等学校を通じて行う。
- ・英語力の到達目標：
[生徒] 英語検定準2級以上保持者または英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる高校生の割合 50%
英語検定3級以上保持者または英検3級以上相当の英語力を有すると思われる中学生の割合 50%

[英語担当教員] 外部検定資格 準1級（CEFR B1）保持率
高等学校 75%
中学校 50%

○【重点】小学校外国語教育の早期化・教科化への対応

・支援体制の確立：

学習指導要領の改訂により、平成32年度から小学校高学年で外国語が教科となり、中学年で外国語活動の授業が行われることから、指導経験の少ない小学校教員が、ALT等外部人材を活用しながら自信をもって外国語活動・外国語の指導ができるよう支援体制を確立する。

・目指すべき授業イメージの明確化：

文部科学省作成新教材を用いた教育庁チャンネルによるモデル授業映像の配信、また優れた指導者による公開授業の実施などにより、小学校教員に対して目指すべき授業イメージを明確に示す。

・教員の指導力・専門性の向上：

平成29～31年度に各校から1名以上参加の「新教材活用研修」を行い、校内研修等も活用しながら小学校教員の不安や負担感を少しでも軽減する。また、英語教育推進リーダーによる平成27～31年度の小学校英語教育推進研修により、教員の指導力向上を図る。平成32年度以降の取組についても検討を行う。

・運営上の工夫に関する情報提供：

ゆるやかな教科担任制の導入やALTなど外部人材の活用に加え、カリキュラム・マネジメントに関わる情報提供を行い、平成32年度からの全面実施に円滑につなげる。

V 第2ステージの指標

第2ステージについても第1ステージと同様に、グローバル人材育成推進プランの進捗を測る指標を定める。成果及び推移を継続的に測るために指標項目については、第1ステージと同様のものとし、目標数値については以下のように定める。

指標① 「国際的に活躍する資質・能力を持った生徒の割合」 (高校2年生対象)

※これまでと同様に下記5つの質問について3つ以上に肯定的に回答する生徒の割合とする。

(挑戦意欲と責任感・使命感の育成)

外国へ留学したり、国内外を問わず海外と関わる仕事に就いたりしてみたいと思うか。

(多様性を受け入れ協働する力の育成)

自分と異なる意見や価値観を持った人とも協力して、目標に取り組むことができているか。

(大分県や日本への深い理解の促進)

外国人に対し、大分や日本のことを、日本語や英語(外国語)で伝えたり説明したりすることができるか。

(知識・教養に基づき論理的に考え伝える力の育成)

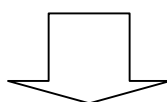
学んだ知識を活かして、自分で考え、判断して、分かりやすく伝えることができているか。

(英語力(語学力)の育成)

英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができるか。

指標② 「一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験のある生徒の割合」

(高校3年生対象)



目標値

*大分県長期教育計画(「教育県大分」創造プラン2016)と共通。

	基準値	目標値	
	平成26年度	平成31年度	平成36年度
指標①	40.0%	50.0%	60.0%
指標②	17.5%	40.0%	50.0%

VI おわりに

この第2ステージにおいても、世界に挑戦し、多様な価値観を持った者と協働するグローバル人材の育成のためには、引き続き5つの力の「総合力」を高める必要があるとし、これまでの取組を継続・発展させることを示している。第1ステージの取組を踏まえ、あらためて今後3年間に取り組むべき施策を示した。

今後、引き続きグローバル化は益々進展していくことが考えられる。また、第2ステージの期間に、ラグビーワールドカップの開催や東京オリンピックやパラリンピックなど国際的なイベントが開催される。また、小学校第3, 4学年での外国語活動の開始、小学校第5, 6学年での英語の教科化、大学入学試験における英語の民間資格・検定試験の活用など英語教育をとりまく状況の変化など、注視すべき点も多い。このため、以下のように、引き続き各施策の進捗状況の進行管理や取組の改善・充実を図る。

- 第2ステージの進捗状況を「大分県グローバル人材育成推進会議」に報告し、会議からの意見を踏まえて、継続的な取組の改善・充実を図る。
- 第2ステージの最終年度である平成32年度において、第2ステージの各取組や成果を検証するとともに、必要に応じ、「大分県グローバル人材育成推進プラン」の継続や改善について検討する。

大分県教育委員会では、引き続き「大分県グローバル人材育成推進プラン」（第2ステージ）を大分県におけるグローバル人材育成の中心に据え、5つの総合力の素地を養っていくことで、これからのグローバル社会を生きる大分県の全ての子どもたちが、世界に挑戦し、自分の夢を叶えつつ、自己実現を図れるようになることを目指し一層の取組を進めていく。

大分県グローバル人材育成推進プラン 第2ステージ (2018~2020)

[大分県グローバル人材育成推進プラン] (2014年)

これからのグローバル社会を生きる大分の子どもたちが、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働して未来を切り拓いていく上で必要となる5つの資質・能力を定義。その育成のために2015年から3年計画の取組(第1ステージ)を定めた。

グローバル人材育成のために必要な5つの力

①挑戦意欲と
責任感・使命感

②多様性を受け入れ
協働する力

③大分県や日本への
深い理解

④知識・教養に基づき、論理的に
考え伝える力

⑤英語力
(語学力)

第1ステージ(2015~2017)の取組

- ①グローバルリーダー育成塾・留学フェアの実施、
留学ガイドの作成・配布、留学支援金事業の運用
- ②小・中学生イングリッシュ・キャンプの実施、
国際交流サポーターの登録及びセミナー等での活用
- ③ふるさと県民フォーラムの実施、地域教材の作成・活用
- ④思考力・判断力・表現力等を高める授業改善、
高校入試改革の推進
- ⑤大分県英語教育改善推進プランの策定・運用

成果

- ☆生徒の英語外部検定資格保持率の上昇(文部科学省調査) :
[中学校] 36.1%(H26) → 43.1%(H29) ... 全国平均40.7%
[高校] 33.4%(H26) → 43.7%(H29) ... 全国平均39.3%
- ☆海外への短期留学生(高校生)の増加 : 15名(H24) → 48名(H28)
- ☆国際的に活躍する資質・能力をもった生徒割合の増加
(高校2年生対象「学習習慣実態調査」) : 40.0%(H26) → 48.1%(H29)
- ☆グローバル人材育成関連セミナーへの参加者の増加 :
[グローバルリーダー育成塾] 205名(H28) → 250名(H29)
[留学フェア] 110名(H27) → 230名(H29)

第2ステージの重点ポイント

①挑戦意欲と責任感・使命感
国際的視野の涵養

- 国際的に活躍する人々と
触れ合う機会の一層の
充実(グローバルリー
ダー育成塾・留学フェア
等)
- 留学支援金支給、留学
フェアの実施等による留
学への積極的な支援の充
実

②多様性を受け入れ協働する力
継続的な国際交流の充実

- 継続的に国際交流を実施
するためのWeb会議や県内
在住留学生による国際交流
サポーター等の活用促進
- 小・中学生対象のイング
リッシュ・デイ・キャンプ
の継続的实施
- 訪日教育旅行者等との交
流促進

③大分県や日本への深い理解
**伝統や文化に関する教育の
充実**

- 小・中学校の道徳や音
楽・美術等での郷土学習の
充実
- 郷土の音楽・美術等を体
験的に学ぶ機会の充実
- 郷土や日本について考え、
発表する機会の充実

④知識・教養に基づき、論理的に
考え伝える力
**主体的・対話的で深い学び
を実現する授業の推進**

- 小・中学校における「新
大分スタンダード」に基づ
く授業改善の推進
- 高大接続改革を見据えた
「授業改善スクールプラ
ン・マイプラン」による高
等学校の授業改善の推進

⑤英語力(語学力)
英語「発信力」の強化

- 小学校外国語教育の早
期化、教科化への対応
- 新学習指導要領実施に
向けた小・中・高等学校
を通じた英語の4技能
(発信力)の強化
- 各学校段階での外国語
学習の到達目標を明示し
た小・中・高の連携

[[『5つの力』の総合力]育成の継続と充実]

